

1. 日 時 平成24年5月8日(火) 15:00~16:40
2. 開催場所 市役所本庁舎2階 第4委員会室
3. 出席委員名(敬称略)

役 職	氏 名	出欠
委員(東北福祉大学教授)	阿部 一彦	×
委員(宮城教育大学教授)	木下 英俊	○
委員(宮城学院女子大学教授)	白木 悦子	○
委員(東北大学教授)	中島 信博	×
委員(東北大学教授)	永富 良一	○
委員(東北学院大学准教授)	松原 悟	×
委員(仙台市スポーツ少年団本部長)	安中 俊作	○
委員(YOKO, INADA スポーツ射撃クラブ)	稲田 容子	○
委員(仙台市体育協会副会長)	金岡 昭房	○
委員(仙台市レクリエーション協会事務局長)	黒田スミ子	○
委員(仙台市障害者スポーツ協会専務理事)	中嶋嘉津子	○
委員(仙台市学区民体育振興会連合会理事)	久水 敏司	○
委員(仙台市スポーツ推進委員協議会会長)	平塚 和彦	○
委員(仙台市議会議員)	鈴木 勇治	○
委員(仙台市中学校体育連盟副会長)	朝間 康子	○
委員(仙台市小学校教育研究会体育研究部会参与)	小林 好美	×
委員(ベガルタ仙台ボランティアクラブ事務局事務次長)	加藤 茂子	○
委員(東北電力株式会社 広報・地域交流部副部長)	二階堂宏樹	○
委員(NPO 法人キューオーエル理事長)	横山 英子	×

4. 説明に出席した者の職・氏名

市民局長	上田 昌孝
市民局次長兼文化スポーツ部長	武田 均
スポーツ振興課長	清水 義明
スポーツ振興課主幹兼企画係長	奥山 健一
スポーツ振興課主任	早坂 正宏
スポーツ振興課主任	佐々木 亨

5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(金岡会長挨拶)

(就任後初出席の委員より挨拶)

(3) 局長挨拶

(上田局長挨拶)

(事務局紹介：奥山主幹)

(4) 議事の内容

議事進行役：金岡会長

会議録署名委員の指名：久水委員

金岡会長 それでは、本日の議事の「仙台市スポーツ推進計画中間案（素案）」について、内容と検討委員会の検討状況について報告する。

【検討委員会の検討状況等の報告】

詳細については、事務局から説明させる。

事務局 【中間案（素案）の第1章～第2章について説明】

金岡会長 第1章～第2章について、質疑はあるか。

永富委員 4ページ、上から6行目の表現で、「影響は長期にわたりました」とあるが、過去形ではなくて「わたっています」と現在進行形で表現すべきではないか。

金岡会長 そのように表現を修正する。

黒田委員 4ページ下から5行目の表現で、スポーツについて『震災により、改めて「みる」「する」ことのできる喜びを感じるとともに』の箇所だが、スポーツに喜びを感じるのもそうだが、ニュースを観たり現地に行って感じたのは、プロスポーツ選手などが「ささえて」くれたことにより元気を得たことを考えると、「スポーツの力」を最初に示すべきと思う。「ささえて」くれたことによって「みる・する」などを導き出してくれたと思う。

事務局 ご指摘の行の前後に「ささえる」を加えた表現にすることで検討する。

金岡会長 その他になければ、これでよろしいか。

【異議なし】の声あり。

事務局 【中間案（素案）の第3章～第4章について説明】

金岡会長 第3章～第4章について、質疑はあるか。

鈴木委員 5ページの上から9行目に「10代や30～40代の方々はむしろ減少傾向にある」と表現しているが、資料の中のアンケートのどの部分に該当しているのか。今後のスポーツ推進の数値目標に大きく関わってくるので、確認をする必要がある。アンケート調査の結果だけで、仙台市の状況を言い切ることはできないので、確実な資料を収集しデータを示すようにしてほしい。

事務局 本日の会議において、10代や30～40代が減少傾向にあることを裏付けるデータを示していなかった。平成22年度のアンケート調査に、年齢事項を含んだものがあるので、きちんと裏付けしたデータをグラフなどで示していきたい。その際は、仙台市の調査と類似する全国的な調査を併せて示すなど、対比できるような方法も考えたい。

平塚委員 この中間案は、市民に対しパブリックコメントを行うためにまとめたものと判断してよいか。

事務局 今後、市民や関係団体、議会などから意見を伺うためのものである。それらを踏まえて最終的には審議会からの提言としてまとめていきたい。

平塚委員 9ページの1-(2)、1-(3)は内容的に近いものがある。これらを不特定多数の方に示した場合、違いが分かりづらいと思う。地域、マイタウン、コミュニティは同じに捉えると思うので、表現を考える必要がある。

12ページの「全国スポーツイベントの開催・誘致」と16ページの「アマチュアスポーツ日本一大会の誘致」があるが、全国イベントとなれば日本一を決める大会となるので、具体的な大会名は表現しなくとも、きちんと明確に区別すれば分かりやすいと思う。

また、全国イベントは声掛けだけの誘致を考えているのか。それとも主催者に施設使用料の減免などの特典を与えることを考えているのか。

また、アマチュア大会は補助金などを考えているため区別をしているなど、はっきりと使い分けをしているのであれば、きちんと整理して表現すべきである。

事務局 1点目の「地域、マイタウン、コミュニティ」については、これまでの計画

の中にも盛り込まれていたが、近い内容になっていることから、再度、表現内容や具体の例示を含め精査していきたい。

2点目の「全国スポーツイベントの開催・誘致」については、仙台市が主催又は共催という位置づけで、誘致・開催を目指すことを前提に考えている。

「アマチュアスポーツ日本一大会の誘致」については、基本的に各種目の競技団体が開催する大会であるが、仙台市が何らかのオファーをすることで、本市を会場として使用いただき市民に競技をご覧いただくこととなる。仙台市が主催・共催することの意味や内容が違っており、「仙台市で大会を実施してください」ということで、場合によっては仙台市からの助成金または補助金の交付を手段の一つに掲げていくという使い分けをしている。表現については、今後、精査していきたい。

稲田委員 アマチュアスポーツ日本一大会とは全日本選手権ということか。現在、仙台市で開催している全日本選手権の競技になるのか。

事務局 その年々によって異なるが、現在は助成制度などがないので、各競技団体が自主的に仙台を会場に選出し、場所を確保し実施するなど、行政側にあまり情報が入らないことが多い。全てを把握している訳ではない。

稲田委員 仙台市で開催できる会場がどのくらいあるのか。また、それを増やしていく予定があるのか。

事務局 会場が一番の課題となる。現在の本市の考え方は、既存の施設で実施可能な競技の案内しかできない。新たな施設を作るので是非とも来てほしいなどと現段階では申し上げられない。もし、複数の会場が必要となる場合は、近隣市町村に仙台市がリーダーとなって声を掛けていこうということを別に表記した。

稲田委員 12ページの「国際総合スポーツ大会の誘致検討」という表現は、オリンピックかアジア大会と思ったが、そのような大会を視野に入れているのか。

事務局 施設の問題があるので、ユニバーシアードやワールドゲームスと考えている。夢はオリンピックの開催である。

稲田委員 それらの大会は招致合戦が大変で、競技場のほかに選手村も考慮にいれなければならない。試合までは盛り上がるが、その後、施設の維持管理が重荷になっていることをよく耳にする。最近は目標とする大会を開催して終わりではなく、継続して国際大会を誘致したり、その先を見越して視野に入れて作った施設を活用していくことを考えて誘致している。広い視野で考える必要がある。

金岡会長 スポーツの種類によっては、文科省で拠点事業として全国大会などを開催しているケースがあるようだ。

安中委員 15ページに「幼児期からスポーツに触れ合う機会の充実」とあり、小さな子どもたちのスポーツ活動の機会を盛り込んでいただいた。日本にスポーツ少年団が設立されて50周年になるが、平成21年にスポーツ少年団の将来像が示され、対象年齢の拡大として幼児の加入という言葉が盛り込まれた。現在は小学生以上が加入対象となっているが、幼児まで広げようとなり、具体的な取り組みはこれからだ。

関連して、団員の減少が進んでいる問題がある。宮城県内で仙台市の小・中の加入率は8%台。他の市町村は二桁台となっている。県のスポーツ少年団の会議などにおいては、仙台市の加入率をなんとか10%に上げるようにとされているので、今回のこの計画に幼児期からのことを盛り込んでいただき、少し光が見えてきた感じがするので、実現化を望むものである。

永富委員 仙台市の加入率が低い要因は、何になるのか。

安中委員 仙台市内は料金を払えば、大人が係わらなくともできるスポーツがたくさんある。例えば、スイミングスクールなどは施設での送迎もある。また、少子化問題も原因の一つと考えられる。

二階堂委員 16ページの「スポーツによる街の活性化」に関連し、復興においてスポーツの役割が非常に大きかったと全体に書かれているが、実際は復興に直接的に関係は無いかもしれないが、様々な大会の誘致やスポーツコミッションの設立などは復興に役立つと考えられる。復興事業の一貫としての位置づけで、国の復興予算を活用する方法などは考えられないものかと感じている。

久水委員 5ページに「施設の利用のしやすさや、身近に手軽に利用できる施設の数に対する評価が低くなっている」との表記がある。一方、10ページに「身近なスポーツ施設の整備・検討」の項目があるが、50代や60代の方がスポーツをする率は上がっていると思う。他の市町村から見ると仙台市は生涯スポーツ的な高齢者向けの施設が少ない。

例えばグラウンドゴルフやパークゴルフの場所が少ない。震災復興関係で仙台東部地域の公園などのことが新聞に掲載されているので、計画の中に入れてほしい。現在は近県の山形や秋田にバスで出かけて行く方が非常に多いので、是非、仙台市内に施設の設置を考えてほしい。

子供たちの活動も始まってきているので、施設があれば子供の率も上がるはずである。ランニングコースや代替の機能だけではなく、生涯スポーツ的な施設の設置のことを盛り込んでほしい。

事務局 具体的な例として、海岸公園としてのパークゴルフ場や野球場などが震災の影響により利用できない状態にある。スポーツ振興課所管のスポーツ施設ではないが、今後、復興計画の中で東部の地域がどのようになるのか積極的に関わっていきながら、単なる復興だけではなく、プラスαの形でスポーツとして関わっていけるような施設にしたい希望があるので、ご意見を参考にしながら修正していきたい。

加藤委員 8ページ一行目の「スポーツに参加し楽しむためには、支え合っていくことが大切です」という表現に違和感がある。後半の具体策でボランティアの人数を増やしたり、関わる人を広げていきたいと言ったときに、大きく、ざっくりと切りすぎている感じがする。魅力を引き出すような、支えることで楽しさが生まれるという表現をしていただくと市民にも伝わりやすいと感じているので、表現を検討してほしい。

13ページ「ボランティア・スポーツ指導者の養成」のところで、説明文の中では「スポーツ指導者やボランティア活動者」と、記載の順番が逆になっている。タイトルと整合性を持つと見やすくなるので検討願いたい。

金岡会長 表現や整合性をとることとする。

中嶋委員 11ページ3-(1)の「スポーツ施設で子供を対象としたスポーツプログラムを提供」と15ページ9-(1)の「多様なスポーツ活動への参加機会の拡大」の表現は、何となく似ているように感じる。

特に未就学児を対象にスポーツをさせるとなると、様々な課題が出てくると思うので、内容を詳しく伺いたい。また、小学生になるとスポーツの機会はどんどん増えていくが、実際、幼児期にスポーツをさせるとなると、料金を支払う場合は別だが、できるスポーツが無いのが現状である。どのように考えているのか伺いたい。

黒田委員 関連することですが、自分たちが参加してスポーツをするだけではなく、観戦することも大きな意味を持っていると思う。本物の競技を見る・触れるということが大切だと感じているので、幼児期の子どもに対し積極的に親子でスポーツに触れ合う機会、見学する機会を提供してもらえればと思う。参加だけではなく観る機会を提供することも必要だと感じている。

事務局 中嶋委員の質問についてですが、スポーツ分野の行政計画として新たに盛り込もうと考えた。一方では、市の他の部局で幼児期に係る計画があるので、連携できる仕組みを考えていきたいと思っている。今後5年の中で、子供未来局と調整し、何かを見つけ出していきたいと思う。

金岡会長 市民局だけの活動ではなく、関連する部局との横の繋がりを持ちながら進

めていく必要がある。検討委員会においてもそのような意見があったので、中嶋委員の意見も加えた内容のある表現に検討していきたい。

平塚委員 15ページの「幼児期からスポーツに触れ合う機会の充実」については、幼児だけで参加することはできない。中間案に示されている2つの項目に、スポーツ振興事業団が実施しているファミリー健康体力づくりを通じた親子の絆づくりとして、各施設で教室を開催していくことを加えることで市民にアピールができるし、スポーツ振興事業団の事業となれば、仙台市からの指導なども容易にできるはずである。

また、いつも感じているが「幼児、幼児」とよく言われるが、我々に幼児を預けられてもノウハウがないので困ってしまう。さらに30代、40代の率が低いとも言われるが、子供を参加させると必然的に親が参加することになるので、そのあたりを盛り込んだ方針を示せばよいと思う。

また、我々スポーツ推進員の目標の一つに、ファミリー健康体力づくり事業に積極的に係わっていくことを今度の総会で宣言する予定である。スポーツ推進員も関与しながら実施することで、行政と一体化できるのではないかなと思っている。

金岡会長 内容は理解するので、表現をもう少し検討する必要があるとの意見として受ける。

永富委員 5ページの「スポーツ推進の基本理念」について、鈴木委員が指摘されたことについては、検討委員会でも同様に指摘した事項であった。スポーツに限ると統計は難しいが、運動とすれば厚生労働省の統計がでていて、活用すると分かりやすいと思う。

また、二階堂委員から指摘があったように、基本理念または目標のどちらかに復興の文字が入らなければならないと思う。今後10年間を見通したスポーツ推進となれば、仙台地域については、まずは復興が入ってこなければいけないと感じた。4ページの震災からの復興におけるスポーツの役割があるが、復興について触れておくと復興関連の予算の支援を受けるきっかけになるのではないかなと思う。たぶん復興計画の中では、スポーツ関連は後回しになり、生活の復興が一番になると思うが、生活の中での重要なものとしてスポーツの役割をうたっている中で、このことを基本理念か目標に入れるようにしてほしい。

金岡会長 復興の文言を加えるようにしていきたい。

黒田委員 スポーツは芸術だと思う。アマチュアよりもプロはやっぱり素晴らしいということを震災のときに実感したので、子供たちに小さい頃から本物のスポーツに触れる機会を設けてほしい。

金岡会長 何らかの大会を開催しているときに、片隅で行うことも検討が必要だが、PRも大切なので工夫が必要である。

永富委員 この計画書の中のスポーツについては、皆さん存じていることなので、分かりやすいと思う。その中でスポーツの力を活用していくうえで、復興に関する表現をもう少し入れていくように検討してほしい。

木下委員 11ページの学校体育との連携の3-(1)「子どもの体力向上への取り組み」の表現について、二つの項目の内容を見る限り「体力向上・スポーツ活動への取り組み」とした方がよいのか、それとも体力向上に直接結びつける内容にするべきなのか変更が必要と考える。「体力向上」だけにすると中身との相互が生じると思うので、間口を広く構えた方がよいと思う。

また、15ページ9-(2)「学校体育における健やかな体の育成」の内容がピンとこない。(1)と(3)はスポーツに関係しているが、(2)は運動となっている。運動という表現が広くていいのか、それともスポーツに統一した方がよいのか、それとも体育授業なのか見えにくい内容になっている。

文章は「体育授業等において専門性を有した外部指導者」となっており、体育授業の専門家のように捉えられるが、そのような意図ではないと思う。運動という表現は広くて分かりやすいのかもしれないが、この部分も間口を広く構えた方がよいと感じた。

金岡会長 表現方法を訂正することで対応する。

稲田委員 15ページ9-(3)について、前回の審議会で伺った際とニュアンスが変わっている。前はだまかにアスリート支援だったが、今回の表現は地元の本拠地を置くスポーツチームがあるので、そのスポーツを支援するとか、発掘するということなのか。それともそれ以外のスポーツも支援していくことなのか。

事務局 前回示した表現は、特定のチームだけにとも取れる内容となっていたので、今回は、地元のスポーツチームだけではなく、それ以外のスポーツやアスリートも含めている内容に訂正している。

稲田委員 トップアスリートの指導機会を得て、そこから才能のある子供たちを発掘するという考えだと思うが、そういったことが実際にあるのか疑問である。確かに物凄いインパクトがあり、子供たちに影響を与えることはできると思うが、その機会があったからといって、そこからトップアスリートが現れるというのは疑問である。どこからトップアスリートが出てくるか誰にも分からない。環境が整っているからといって、必ず現れる訳ではないので、この表現では分かりづらいと思う。

金岡会長 競技者の支援というところに力をいれた内容に訂正し、養成では無いとした表現に訂正する。

稲田委員 訂正することで理解するが、訂正するのであれば、もっと中身を練らなければいけないと思う。もし、簡単にトップアスリートが出てくると考えているのならば、考え直す必要があると思っている。

金岡会長 あくまでも目標なので、その目標をどうするか戸惑っている部分もある。しかし、簡単にはいかないと思うが目標は必要なので、どのような表現にすればいいか内容を吟味していく必要がある。

白木委員 「する」・「みる」・「ささえる」・「ひろがる」の全ての項目で、それぞれについて関連性が多くあるので、点在している項目については見直しや精査が必要かと思う。やはり関連性や統一性、そして繋がりのある計画書になることが重要である。

金岡会長 繋がりがある項目は、整合性をもってまとめていくこととする。その他になければ、これでよろしいか。

【異議なし】 の声あり。

事務局 **【中間案（素案）の第5章について説明】**

金岡会長 第5章について、質疑などはあるか。

【異議なし】 の声あり。

金岡会長 パブリックコメント実施の前に、本日の意見等を私と事務局で調整・整理のうえ各委員に送付する。その後、検討委員会に諮った後に、審議会を開催したいと考えているが、いかがか。

【全委員了承】

続いて、事務局から今後のスケジュールについて説明願いたい。

事務局 (スケジュールについて説明)

- ・ 関係機関への意見聴取
- ・ 教育委員会、議会への報告
- ・ 市民へのパブリックコメントの実施
- ・ 9月末 答申・策定

金岡会長 このことについて、ご質問等はあるか。

【各委員なし】

なければ、本日の審議を終了とする。

(5) その他

- ・ねんりんピックの開催について説明
- ・仙台国際ハーフマラソン開催について説明

(6) 閉 会